


# BMS 3月例会のご案内

— 114th Bungeiken Metropolis Seminar —

 3月2日(日)9時30分～12時30分

大東文化会館 404 研修室  (  池袋駅より各停で15分、  
東武東上線「東武練馬」駅下車2～4分。大東文化大学板橋キャンパスとお間違えなく)

 テーマ **学級じまい・学級びらきで  
読み合いたい詩や絵本**

報告①:西真由子さん(東京文芸研 湘南学園小)


報告②:山中吾郎さん(東京文芸研 大東文化大)

子どもたちを送りだし、新たな子どもたちとの出会いの時季。子どもたちの小さな胸がふくらみ、ゆらぐ学年末・新学期の時季にふさわしい詩や絵本の紹介をします。皆様の参加をお待ちしています。

運動場 山本純子

未来のどこに  
わたしは立つんだろう  
と思つたら  
未の字の右ハライの先つぽだ  
卒業アルバムにのせる  
人文字の写真をとる日  
みんな 未来のどこかで  
踏ん張ってるよーと  
屋上で光るカメラの  
ずっと向こうの白い雲に  
いつせいに 両手をふった

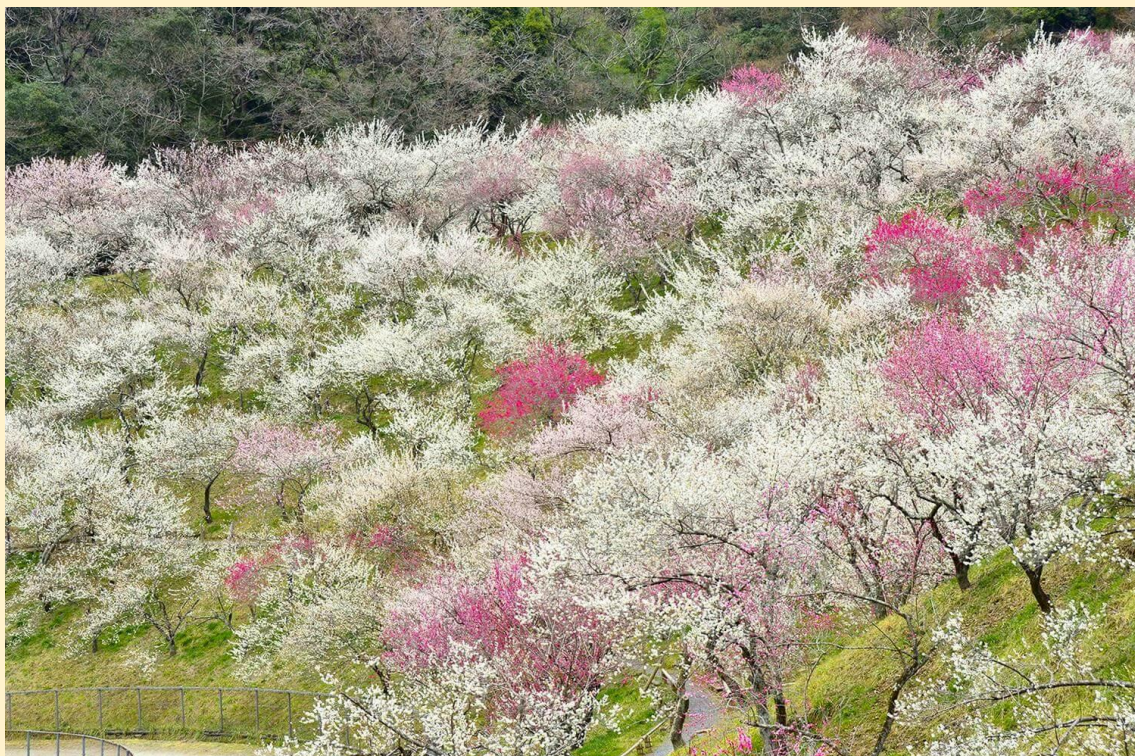
(山本純子 詩集「カレンダー」  
仮説社 2023)

**参加申込**  (ハイブリッド方式) リアル参加は先着 40名とさせていただきます。申し込みについては、リアル参加の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。 リアル参加 500円・オンライン参加 800円(会場費・資料代・システム利用料)  
参加申し込みは <https://bms202503-bungei-tokyo.peatix.com/> から

【文芸研東京学習会(BMS)連絡先】上西信夫 ☒ →nobu.uenishi@outlook.jp

## 東京文芸研学習会(BMS3月例会)のご案内

—114th Bungeiken Metropolis Seminar—



📍 八王子市高尾梅郷

🇯🇵 東京は雪こそ舞わなかったけれど底冷えのする2月2日、BMS2月例会を行いました。今回は新教材分析シリーズ第8弾として「スワンレイクのほとりで」(小手鞠るい作 光村図書出版4年)を上西(東京文芸研)が報告しました。

多文化共生教育も英語教育も(前回の図書館教育も)そのこと自体は大切な教育内容ですが、改訂版教科書の傾向として「ためにする文芸教育」—初めにテーマありきで、そのための読み物という意図が透けて見えます。文芸を文芸として読むことを第一に考える立場としては、政策遂行の「ためにする文芸教育」のプロパガンダ教材としての役割に留意しながら、この教材をぎりぎり生かせるところは何かを考えたいという話から切り出しました。

文芸を文芸として読むこと—形象の相関・全一性の原理として読むことで、もの・ことを《関連》づけて読んだとき作品の主題・思想が読者の前に立ち上がってきます。さらに、形象の全一性として「書くということはどういうことか」という問いと、「書かなければ本当に考えていることはわからないという」答えを〈歌〉の姿から見出すことができるという解釈は、文芸研の学習会ならではの深い解釈だったとの感想が寄せられました。また、小手鞠るいの作風らしく、淡い恋の物語としても読むことの指摘も参考になりました。一方、夏休み中のアメリカへの海外旅行の設定は、子どもの生活実感とかけ離れた物語世界で違和

感があるとの意見も出されました。上西サブ報告として、「3 学期教室で読み合いたい詩」として、「おに」（谷川俊太郎）、「雪」（三好達治）、「みち」（谷川俊太郎）の紹介と、西郷模式図の「話体と文体」に関わって「戦争」「くどい」（ともに内田麟太郎）の構造分析資料が提供されました。久々にリアル参加の高橋欽一さんからは、ワークシート学習やスタンダード化が広がる現場の危機的な状況報告もありました。

次回 3 月例会は、西真由子さん（東京文芸研 湘南学園小）と、山中吾郎さん（東京文芸研 大東文化大）による「学級じまい・学級びらきで読み合いたい詩や絵本」の2 報告です。次回も事務局・西真由子さんのホスト役でハイブリッド方式で行いますが、リアル参加は先着 40 名とさせていただきます。申し込みについては、リアル参加の方もオンライン参加の方も下記ピーティックスからの申し込みをお願いします。

## 記

1. 期 日      2025年3月2日（日）9時30分～12時30分  
                 ハイブリッド方式
2. 会 場      大東文化会館 404 研修室  
                 （池袋駅より各停で15分、東武東上線「東武練馬」駅下車2～4分。大東文化大学板橋キャンパスとお間違えなく）
3. 内 容      学級じまい・学級びらきで読み合いたい詩や絵本  
                 報告①：西真由子さん（東京文芸研 湘南学園小）  
                 報告②：山中吾郎さん（東京文芸研 大東文化大）
4. 主催・参加費・申し込み 東京文芸研／リアル参加 500 円・オンライン参加  
                 800 円（会場費・資料代・システム利用料）

参加申し込みは <https://bms202503-bungei-tokyo.peatix.com/> から

（一週間前には申し込みができるように準備をします。問い合わせ 事務局・西さん）  
以上

例会後、例会で扱う教材以外の個別の相談にも応じています。事前に連絡をください。カンとセンスとブームの国語の授業、教科書会社の指導書やワークシート学習から、視点・形象の相関をふまえた切実な共同体験の形成、文芸体験の思想化・典型化の授業づくりをめざします。23 年夏の山口大会、24 年 8 月 3・4 日の第 58 回徳島大会、「国語の教室」、各地の講座で初めて文芸研の理論と実践に接し興味をもたれた方、国語の授業づくりに困っている方、深い学びをと願っている方、教職をめざしている方、青年学校受講生の方、各地

のサークル例会が開催困難なサークル会員の方々…の参加をお待ちしています。

## インフォメーション



▼18期8回+（補講） 文芸研青年学校 2月24日（月・休日）9時～12時 オンライン 講師：上西信夫／18期9回 4月26日（土）予定

▼八王子文芸研基礎講座 2月28日（金）18時～20時 八王子市立高嶺小学校（ハイブリッド）「アレクサンダとぜんまいねずみ」 講師：上西信夫 詳細は文芸研HPをご覧ください。

▼BMS4月例会 4月6日（日）9時30分～12時30分 大東文化会館

▽「文芸教育」（西郷竹彦創刊・文芸研編・新読書社刊）最新134号 特集「認識と表現の力を育てる説明文の授業」／133号 特集「真に『深い学び』をめざすファンタジー教材の授業」 好評発売中！ 各号1700円＋税 バックナンバーあります。年間購読をお願いします。例会でも用意します。

▽光村版・**新教科書指導ハンドブック**（学年別）発売中／新読書社より各学年1700円＋税 セット割引有／この学年でどんな〈ものの見方・考え方〉を育てるかの観点で編集

▽文芸研授業シリーズ好評刊行中！ 第1弾「たぬきの糸車」（新読書社）・第2弾「一つの花」・第3弾「おおきなかぶ」・第4弾「わらくつの中の神様」・第5弾新刊「サーカスのライオン」／教材分析と授業構想・授業記録がこの一冊に。板書や発問が参考にできて、使いやすい・わかりやすいと好評。入門書として最適です。各1000円＋税

## 「朝日歌壇・俳壇」より 子ども・学校・ことば・世相・戦争を詠む

福島も能登もかなしいお正月（成田／かとうゆみ）

子どもらが小さな手をもて入れくれし募金を汚す八億の寄附（観音寺／篠原俊則）

小春日のチャイムはどこかのんびりと子らと教師のドッチボール（兵庫県／高澤栄子）

縫い目なき衣の如き新しき雪軽やかに裁ちゆく子らよ（札幌／星野英毅）

世界には飢餓たる人のあまたあるを説きつつ子らにお年玉与ふ（朝霞／岩部博道）

小春日のチャイムはどこかのんびりと子らと教師のドッチボール（兵庫県／高澤栄子）

縫い目なき衣の如き新しき雪軽やかに裁ちゆく子らよ（札幌／星野英毅）

基地の内どこにも戻る道が無いふるさと探すわれの沖縄（所沢／風谷螢）

二重被害受けたる能登の冬晴のテントにカレーの香り漂う（石川県／瀧上裕幸）

「私はなぜここにいるのか」極寒のロシアの地を這う北朝鮮兵士（横浜／森秀人）

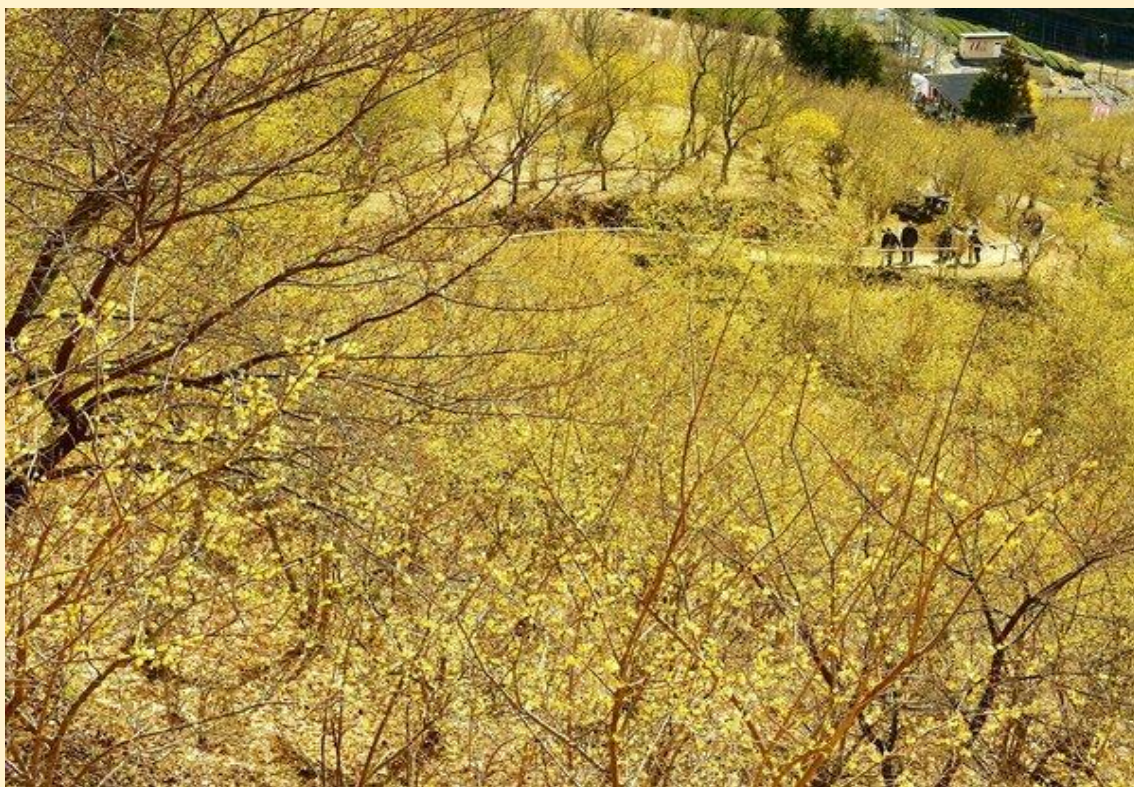
円滑に進んでいるということは誰か犠牲になっているのだ（横浜／菅谷彩香）

冬の川両の手を真っ赤にして楮剥（こうぞは）ぐ母風船爆弾とは知らず（豊田／近藤敬二）

賽銭に一円五円使うよりスマホ決済望む神様（江別／増田辰良）

漂着の鯨の死骸貪（むさぼ）りて子熊の腹は冬眠につく（津／中山道治）

人生で一番良かったこと問われ「終戦」と言う百寿者あまた（久留米／塚本恭子）  
もう海にもどれぬ辺野古の海に打つ七万一千本の杭（観音寺／篠原俊則）杭は悔い  
二（ふた）切れの鮎ずし肴（さかな）にふる里を語りて止（や）まぬ父の晩酌（東京都／上田国博）  
大地震（おおない）と大水ののち能登は迷路どこに行きても「通行禁止」（かほく／中村むつみ）  
屠蘇（とそ）機嫌吹き飛ばされたあの日からもう一年かまだ一年か（高岡／池田典恵）  
四年後にもう一期できるとトランプが大統領令出しませんように（水戸／中原千絵子）  
ふるさととは宇宙の中に在るからと言ひて谷川俊太郎逝く（筑紫野／二宮正博）  
しーんもこもこもこもこと初日の出（八王子／額田浩文）  
三日はや国会前に久枝立つ（さいたま／関根道豊）澤地久枝さん、94歳  
正月や孫を土産に子が帰郷（茨城県東海村／櫻村好則）  
年賀状ああこの人も仕舞ふなり（岐阜県神戸町／林宏尚）  
賀状見て終（しま）いせしこと悔いにけり（茂原／山口昭雄）  
六歳の筆圧みごと年賀状（杉並区／伊東澄子）  
本読むは旅すること冬銀河（相模原／のなかあけみ）  
おおきたかきたかきたかとおとしだま（北九州／成松千秋）



神奈川県松田町寄（やどろぎ）蠟梅（ロウバイ）園



● 府中市郷土の森公園の梅園



● 小田原市曾我梅林

# 2025 年文芸研第 59 回大会は<sup>チーバ</sup>千葉大会

8 月 2(土)・3(日)日 柏市周辺の会場を確保中

参加+実行委員としてお力添いをお願いします。



📍チーバくん📍 チーバくんは千葉県のマスコットキャラクター。くまモン、ひこにゃんほど有名ではないけれど…。

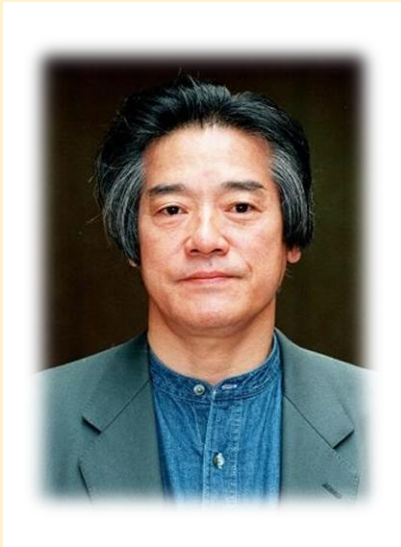
📍30 年以上千葉県松戸市・柏市に住みましたが、ごく狭い範囲で「花より団子」派の方にお薦めのお店  
松戸市・柏市はラーメン激戦区、つけ麺の「中華そばとみ田」（松戸駅近く）と札幌味噌ラーメンの「らめめん美春」（北松戸駅・松戸新田駅 上本郷）は人気店。パン好きには東京駅にも出店した小金原のパン店「zopf ツオップ」（北小金駅・小金原）。手打ちそばと懐石料理「あずみ野」（南柏駅）もお勧め。

📍千葉県はスポーツの盛んな県、スポーツ観戦好きには魅力的なところ。健康都市宣言の船橋市は特に知られています。サッカー・駅伝・体操などでおなじみの市船（いちふな）。プロスポーツもNPBの千葉ロッテマリーンズ、J1 柏レイソル、J2 千葉 JEF ユナイテッド、B リーグ船橋ジェッツ、ラグビーリーグ ONE のクボタスピアーズ船橋・東京ベイ、NEC グリーンロケッツ東葛など。大会前後にスポーツ観戦ができるかもしれません。また、吹奏楽では柏市酒井根中、松戸市四中、市立習志野は全国コンクールの常連。マーチングバンドも市立柏高など全国大会常連校。



📍世田谷区梅ヶ丘・羽根木公園

追悼 李恢成さん（1月5日逝去 享年89歳）



朝日新聞1月15日朝刊「李恢成さん死去 外国籍で初の芥川賞 89歳」の見出しで訃報を大きく取り上げていた。記事では、「在日朝鮮人2世として外国籍初の芥川賞を受け、『見果てぬ夢』や『地上生活者』などで在日文学を確立した作家の李恢成（り・かいせい、イ・フェソン）さんが誤嚥性肺炎で5日死去した…1935年、ロシア・サハリン（当時の樺太）生まれ。戦後札幌市に移住。早稲田大学卒。朝鮮新報記者などを経て、68年に『またふたたびの道』で群像新人文芸賞を受け、作家デビューした。72年、少年の母への追憶を描いた『砧を打つ女』で芥川賞。在日朝鮮人の一家を通して、南北に分断された祖国への思いを描き続けてきた。代表作『見果てぬ夢』（77～79

年）は70年代の韓国を舞台に、祖国統一に揺れ苦闘する人々の群像によって歴史と向き合った。94年『百年の旅人たち』で野間文芸賞。晩年の大河小説『地上生活者』（2005～20年）は、自身と重なる主人公の半生を通して在日を生きる意味を問うた」と紹介していた。私の世代では「伽耶子のために」（新潮社／解説は西郷竹彦）の映画（小栗康平監督）を観た方も多と思う。

「西郷竹彦文芸・教育全集」月報六（第6巻付録）1996年6月に寄せた李さんの文章をそのまま転載させていただく。（『全集』付録・月報は毎号西郷先生とゆかりの方が巻頭文を飾って好評であった／西郷竹彦著『わが人生を織りなせる人々』新読書社2008と併せて読んでほしい）

---

個人レッスン

李恢成

久しぶりに西郷竹彦先生のお声を受話器をとおして聞いたとき、なつかしかった。

もう九年も前にお会いしたきり、ずっと消息がなかった。こっちも目のまへのことに追われてごぶさたがつづいていた。最後にお会いしたのが1987年、在日文芸誌「民涛」のオープニング・パーティーのときで、束の間、立ち話をかわしただけである。この日、先生はわざわざ遠路お祝いに足をはこんでくださった。別れしなに白い封筒に入った何かを手渡してくださったのは人生の問答だと思うが、こうもおっしゃられた。この仕事をしようとしておられたのですね。それでわかりました……。

たしかにそんな言葉だったと思う。きっと先生は僕がずっと小説を書かずにいたのを訝（いぶか）っておられたのだろう。僕にはそう受けとめられた。たしかに80年代に入ってから僕は作家としての仕事をおろそかにしていた。結果的にそうだった。個人的な事情が生じ、その一方では在日の文芸運動をせねばならず、低迷しながらもまるで人生の突破口でも求めるように「民涛」を仲間と一緒に



にはじめたのだった。

その日以来、長い歳月がたっていた。

「もう9年になりますか」とおっしゃる。

「早いもんですね」と僕はいった。

僕が作家生活にもどってきたのは5、6年前のことだが、先生の方はこんど33巻の文芸・教育全集を出すのだという。見事なものだと思った。いちど、数ヶ月前だが、NHKの教育番組で文芸の虚構をめぐる話をしているのを途中から聴いたことがある。ひょうひょうとしてねばり強い説得力を感じた。なるほどと思ったものだ。

70年代のことがよみがえった。

最初にお会いしたのは72年の夏、「文芸研」の全国大会が高知の中村市でひらかれたときのこと。どんなご縁でか、僕を講演者として招いてくださったのだ。(芥川賞受賞直後、第7回文芸研大会。演題「私の中の教師像」<sup>㊤</sup>上西)四国にわたったのはそのときが初めてで、そんな興味もあったが、文芸研の人々と知り合うこととなり、とても新鮮だった。生き生きとしている雰囲気伝わり、眩(まぶ)しい気がしたものである。

その出会いがキッカケになり、西郷文芸研の存在は僕にとってだんだん意味の深いものになっていった。といっても、この僕には気儘(きまま)で無頼な闖入(ちんにゅう)者みたいなところがあったのだが。いや、そうではない。西郷竹彦を中心とする不思議と自由な文芸・教育の雰囲気に触れ、ひとりひとりに接するほどに、親愛と歓びを感じていたというべきであろう。本質的な意味で、このことは僕の魂が自由に解かれていく何かであった。自分の中で凍っていたものが溶け出し、奔放になっていく感覚がこそばゆかった。

そのキッカケがああ旅のせいではないかと僕は信じてやまないくらいだ。73年のやはり夏、西郷先生が九州横断の旅に僕を誘ってくださった。二人で旅をしようという。なんて唐突かつ無邪気、無垢な誘いなのだろう。僕はそんなおどろきを心に抱いた。戸惑ったが、気付いたときには旅支度をしていた。この人といっしょにいると何よりたのしいし、まなぶことがおおいからであった。当時の僕は38歳、西郷竹彦は53歳、父と子ほどの年齢の差はなく、さりとて長兄とよぶには年がひらきすぎている間柄であった。稀人(まれびと)、とは西郷竹彦のような人物を指している言葉であろう。そうでなければ、こんなケタ外れな旅をするはずがない。

とにかく、二人は博多駅で落ち合った。二人は唐津市に行き、呼子(よぶこ)港に足をのばし、さらに名護屋(なごや)城趾を歩き、そこから玄界灘を眺めた。秀吉の「朝鮮征伐」の拠点に立って歴史を思い起こす機会をえたのだった。一週間の旅は始まったばかりであった。

いったん博多にもどった二人は上野英信さん(記録文学作家／炭鉱労働者の生きざまを描き続けた／「地の底の笑い話」など<sup>㊤</sup>上西)と飲んだあと寝台車にのり、終着駅の西鹿児島駅(現鹿児島中央駅<sup>㊤</sup>上西)に向かった。明け方、車窓からシラス台地を見た。旅の道連れが早速説明してくれる。この不毛のシラス台地のために農民がいかに苦しめられてきたかと。良質の陶土を求めて渡来人たちがいかに居を転々としなければならなかったかと。

旅のあいだ中、僕はこの薩摩隼人から「個人レッスン」を受けていた。言ってみれば、二人の旅とい

っても、これはよろずに無知な僕のためにセットされたものではないかと思えるくらいである。おそらくこの博搜の人物は、若くて無知な僕に、けれども未来のある人間に、九州と朝鮮の歴史の関りを知ってもらおうと期待しておられたのだろう。しかし、それに止まらぬ人間の実存的な発見もあった。この人の裸のままの人間づき合いはおおいに僕を驚嘆させ、蠢惑(こわく)したものだ。二人は、串木野の浜を眺めて旅情にかられ、飛び込んだ一杯屋でお内儀(かみ)から「串木野さのさ」をおそわったり、美山(みやま)(朝鮮半島から連行された陶工がこの地に集められた。薩摩焼の里として知られ 14 の窯元がある。㊤上西)に向かって車を走らせ、渡来人の末裔の住むこの地域で檀君を祀る玉山神社をもうでたりした。

なかでも忘れられないのは、笠の原に行ったときのことだ。玉山神社の近くにあるこの墓地を探していったのは、そこが渡来人の墓所と聞いていたからだである。草深い墓地だった。苔むした墓石の碑銘をよんで僕は胸がつまった。どの墓石も、あきらかに渡来人の末裔(まつえい)とわかる姓名をいまに遺していた。無縁仏はほとんどなく、どの墓石にも花が供されていた。参詣者がいるのだ。いかなるゆかしいわれをもつお方なのか。あとで沈寿官さん(薩摩焼の陶芸家の名跡、面会したのは 14 代沈寿官か ㊤上西)に会ったとき、「わしら、帰化したんじゃない。渡来しただけです」とっていたのを思い浮かべる。

この年の旅は、今もぼくの心の奥にある。その匡底(きょうてい)にあるものを作家として形にかえていないのはもっぱら怠惰のそしりを免れない。だが、よろずにのんびり屋の僕のことだから、時が熟成するのを待つしかない。

影身のようにこの旅を誘って共に歩んでくださった方にたいする感謝の気持ちがいまも持続しているのである。

---

本文中「西郷竹彦を中心とする不思議と自由な文芸・教育の雰囲気に触れ、ひとりひとりに接するほどに、親愛と歓びを感じていたというべきであろう。」と書かれてあるのは、青森文芸研の山形英二・泉正明・榊均さんらと東京・大きなかぶの会のお姉さん方、奄美文芸研の面々のことであろう。青森県文芸教育研究集会在が開かれていた 1980~90 年代、李恢成さんをゲストに招いたことがあった。30 代の私は夜行列車(「はつかり」か「ゆうづる」か「あけぼの」だったか)で往復して参加した。その折、李恢成さんと帰路同じ列車で「センチメンタルジャーニー」「ロンリージャーニー」とからかわれて帰って来たことを覚えてい。第 17 回東京大会(82 年)のときも、交流会(「著作集」出版記念会)に駆けつけてくれたことともに——ご冥福をお祈りする。

🍎 旭丘高校「第 29 次(通算 63 次)全学教育研究集会」 1 月 24 日(金) 毎年声を掛けていただいている小田原市の私立旭丘高校の全学教育研究集会在に国語科の共同研究者として参加した。国語科の今年の授業公開は言語文化領域の和歌(百人一首)の授業であった。主体的・協働的な学習と文法・修辞法等の教科内容を統一的に追求する授業展開であった。

旭丘高校のすばらしいところは、授業後の人文科学系(国語・英語・社会)合評会(分科会)一合評会には教員・生徒・保護者・共同研究者が参加し、対等平等の立場で意見を述べ

合い、三者で教育内容を検証し創造していることにある。権利としての学習権の行使・保障を実践していることだ。生徒も教師も保護者も互いに相手をリスペクトしている雰囲気がか心地よい。

協議では百人一首②番「春過ぎて夏来にけらし白妙の衣ほすてふ天の香具山」の持統天皇の歌については、作品や人物（語り手）を歴史や社会の中に位置づけることを万葉相聞歌に特徴的な「寄物陳思」（隠喩）のことと併せて話した。景と情の相関を読むことは小説の読みにも転用できる普遍的なコードである。また⑨番「花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに」（小野小町）では、日本人の伝統的な人間観世界観である無常観を扱うことはもちろん、〈ふる〉（降る・経る）／〈ながめ〉（眺め・長雨）の掛詞から、日本語の音韻数の少なさからくる同音異義語の多さというマイナス面を「掛詞」というプラス面—文芸の美（味わい・趣）に昇華させた伝統文化の学習にまで視野に入れること。さらに和歌優美から俳諧自由、啄木詩歌への変遷についてもおもしろくて深い授業への切り口になることを助言した。これらはすべて『全集』はもちろんのこと、西郷文芸学理論・教育的認識論、高校での学習でこそ有効な西郷模式図、黎明書房刊の「美学三部作」・「賢治三部作」等々から学んだことである。西郷先生は私たちに、先生がいなくなっても困らないように〈たからものとなるような、ちえやくふうをのこしてくれたの〉だどつくづく思う。（「わすれられないおくりもの」スーダン・バーレイ作）



「文芸教育」134号・1700円＋税

### 文芸研の実践理論研究誌

### 「文芸教育」新読書社刊

### 西郷竹彦創刊 文芸研編

134号は「認識と表現の力を育てる説明文の授業」特集。文芸研の説明文指導は、説得の論法を手がかりに、認識の方法を駆使し、深い認識内容に迫ることが特色です。具体的な教材を通しての文芸研方式の授業がわかります。学習会でも用意しています。

135号は3月刊行予定。特集「私の『学級びらき・授業びらき』」／バックナンバーも用意しています。「文芸教育」誌は3月・7月・11月の年3回発行。定期購読をお願いします。

📍 文芸研東京学習会(BMS)連絡先 上西信夫

✉️ → [nobu.uenishi@outlook.jp](mailto:nobu.uenishi@outlook.jp)

📱 SMS → 080-3253-4742

学習会で扱う教材希望がありましたら上西までメールでご連絡ください。

## BMS 会場案内



板橋キャンパスと間違えないでね



大東文化会館へのアクセス：池袋駅より東武東上線各停で7駅（約15分）、東武練馬駅（大東文化大学前）下車。どの出口からも徒歩2～4分／学習会会場はK404 研修室（40人収容）、9時から13時まで借りています。（山中吾郎さんに尽力いただき、3月2日（日）、4月6日（日）まで予約済み。今から予定に入れてください。開始・終了時刻が以前より30分遅くなりました。）エデュカス東京（麹町）より大東文化会館までの所要時間がかかる方もいると思いますが、学習会充実のため引き続きリアル参加にご協力ください。

0 (ぐ) 山中利子

- 1 自分で自分がいやになる
- 2 くねくねすること
- 3 とぐろをまくこと
- 4 なんでもひとのみにしてしまうこと
- 5 シュウシュウ言うのも
- 6 止められない
- 7 頭を冷やそうと泳いでみる
- 8 自分をなくそうと
- 9 皮を脱ぐ

（巳年の三学期の授業―題名を伏せて一文ずつ視写しながらイメージと意味を考える。一行目から「あゝわかるゝ」の声。二、三行目からは、自分に自信がなさそう。内にこもっている感じ。四行目の「なんでもひとのみにしてしまうこと」は平仮名表記から掛詞的に「嫌なことも飲み込んでしまう」「なんでも人のせいにする」「相手のことばかり考えてしまう」とわが身に引き寄せて人物像を造形する。五行目（シュウシュウ：）は怒りを貯めこんでいる様子で、そんな自分も嫌になる。七行目ではそれぞれのクールダウンの方法を交流し合い盛り上がる。悲劇とも喜劇とも読める美的体験の授業。明星学園小学校5年2組・松園悠介さんの学級通信「まつっしん」1月23日号より。）

# 第59回文芸研大会・千葉大会

大会テーマ:《ものの見方・考え方》を育てる国語教育/主催:文芸教育研究協議会

1次案内

**期日** 2025年8月2(土)・3(日)日

**会場** 全体会:スターツおおたかの森ホール(流山市)

つくばエクスプレス・東武アーバンパークライン「おおたかの森」駅北口4分

分科会:さわやかちば県民プラザ他(予定)

つくばエクスプレス「柏の葉」駅/常磐線・東武線「柏」駅より東武バス

**内容** 1日目・全体会(9時15分~16時30分)

基調提案/公開授業・シンポジウム/馬頭琴演奏 <sup>mihō</sup>美炎さん/実践報告/

記念講演 荻上チキさん (交流会 18時~20時・ホテルルミエールグランテ)



1981年生まれ 評論家・編集者  
メディア論を中心に政治経済、社会問題、文化現象まで幅広く論じる。主な出演番組 TV「サンデーモーニング」「ニュース23クロス」ラジオ「荻上チキ session」等

**2日目・分科会**(1午前/2午後の2部制 9時15分~16時30分)

【1. 午前 領域別分科会】

- ①詩の授業 ②説明文の授業 ③作文 ④絵本 ⑤文芸学
- ⑥ものの見方・考え方 ⑦特別支援学級の国語の授業

【2. 午後 学年別分科会】

- ①小1「スイミー」 ②小2「かさこじぞう」 ③小3「モチモチの木」
- ④小4「ごんぎつね」 ⑤小5「大造じいさんとガン」 ⑥小6「海のいのち」
- ⑦中・高「夏の葬列」

■参加費 4000円/参加申込 5月中旬より「文芸研」HP から

第59回文芸研  千葉大会実行委員会連絡先

秋山亮介(080-3210-6358/chakky511@gmail.com)